

早期の気づきと発達支援



こども発達支援センター風
管理者兼 児童発達支援管理責任者
福高 翼

保護者研修の自己負担について

- 今年度は対面で実施する研修1回あたり1,400円の自己負担をしていただくこととさせていただきます
- お支払方法はご登録講座からの自動振替となります
- ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします



“気づき”について

“気づき”とは
発達支援の流れ
気づきのポイント
重要性について

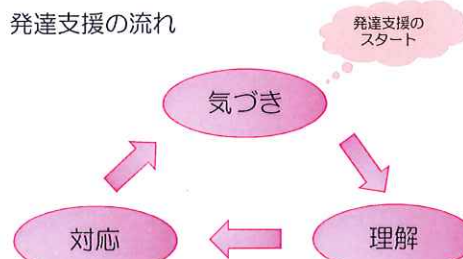
“気づき”とは

- 気づき=気づくこと
 - ・ こどもの成長に気づく
 - ・ お友だちの髪型が変わったことに気づく
 - ・ 町の変化に気づく etc...
- 以前との違いを見つけることが必要
 - ・ これからの行動を考えられる
 - ・ 原因を考えるきっかけになる

発達支援の流れ

- こどもの気になる行動、反応に気づく
 - ・ 泣き叫ぶ、こだわり、言葉 etc...
 - 支援のきっかけ（なんでだろう？）になる
- こどもの行動、反応を正しく理解する
 - ・ 原因、気持ち、障がい特性、物の見え方 etc...
 - 行動の原因、要因を探す
- こどもの行動、反応に配慮（対応）する
 - ・ スケジュール、視覚支援、構造化 etc...
 - 正しい理解に基づいた、正しい配慮

発達支援の流れ



発達支援の流れ

- 相談する
 - ・ 療育機関、心理士、先生、相談支援事業所
→信頼できる機関や人を見つけておく
 - ・ 家族、場合によってはお母さんひとりで抱え込まない
- 支援を継続する
 - ・ 機関と信頼関係を作り、発達支援を継続する
 - ・ 機関任せにしない、支援を途切れさせない

気づきのポイント①

- 人とのかわり
 - ・ ひとり遊びが多い、一方的なやり取りが多い
 - ・ おとなしすぎる、常に受動的
 - ・ 大人や年上のこどもとは遊べるが、同年代のこどもと遊ぶのが苦手
- コミュニケーション
 - ・ 上手に話すが一方向的に話すことが多い
 - ・ ことばの指示が伝わりづらい
 - ・ 話を聞いてもらえないことが多い

気づきのポイント②

- イマジネーション（想像性）
 - ・ 相手の気持ちを考えるのが苦手
 - ・ 他のこどもの言動を真に受けてしまう
 - ・ 急な予定の変更に不安や混乱した様子がある
 - ・ 複数のお友だちとの遊びにうまくついていけない
- 注意、集中力
 - ・ ひとつのことに没頭すると言葉かけが入りづらい
 - ・ 落ち着きがない、集中力が持続しない、ぼんやりしていることが多い
 - ・ 忘れ物が多く、習慣化されない

気づきのポイント③

- 感覚
 - ・ 靴下をはきたがらない、服の好みに強い偏りがある
 - ・ 音に敏感、逆に鈍感、苦手な音がある
 - ・ 極端な偏食がある
 - ・ 狭い空間を好む
- 運動
 - ・ 姿勢の保持が難しく、床に寝転ぶことが多い
 - ・ 極端に不器用、絵や文字を書くのが苦手、筆圧が弱い
 - ・ うまく口に運べず、食べこぼしが多い
 - ・ よく人やものにぶつかる、よくこける
 - ・ 同時に複数の機能を使う運動が苦手

気づきのポイント④

- 学習
 - ・ 話すほど、大人の言葉をうまく理解できていない
 - ・ ひらがなが書けない、読むこともできない
 - ・ 文章を読むのは得意だが、簡単なお手紙や作文を書くのが苦手
- 情緒、感情
 - ・ 極端な怖がり
 - ・ 些細なことでも怒りっぽい、思うようにならないとパニックになる
 - ・ 感情が高まると自分でコントロールできなくなる

早期の気づき、早期発達支援の重要性

- 気づき、理解、支援が遅れる
 - ・ こどもの課題、問題の増加
 - ・ 親子関係の複雑化
→解決に時間がかかる
- 発達支援＝将来の問題への予防



大切な視点として...

- 「困った子ども」という視点
- ↓
- 「困っているのは子ども」の視点
- 視点を変えることで、「気づき」が生まれる
→ 早期療育のきっかけ

「困った子ども」= 「困っている子ども」

なんでだろう？

～幼児期からの発達支援～
「なんでかな・・・？は気づきのスタート」



- 大阪府府政情報センター
お問い合わせ先
- ・ 電話番号
06-6944-8371
- ・ ホームページ
<http://www.pref.osaka.lg.jp/i-ohokokai/jigyos3/kankobutu.html>
- ・ 価格 90円

発達支援のポイント

～良い親子関係のために～

ほめることについて
かわり方について
子どもの行動が
よくなるためのポイント

子育てに対する考え方

- 周りから見て「困った子ども」
→ 決してわがままや育て方の失敗ではない
- 周囲の人の誤解や関わりの難しさが、本人の成長過程に大きく影響する
- まずはプラスの親子関係づくりから
 - ・ 大人が変われば、子どもが変わる
 - ・ 子どもが変われば、大人もさらに変わる

ほめることの大切さ

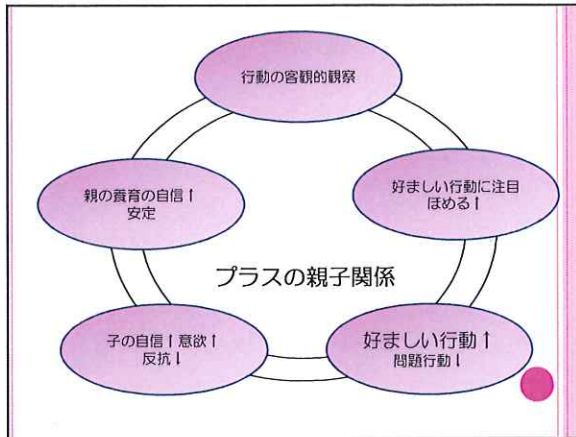
- 子どもの良い行動を増やす
→ 肯定的な注目を与えることが効果的
- 「いつも自分のことを認めてくれる、見てくれている」と信頼関係ができる
- 「自分是可以るんだ、やれるんだ」と自信に繋がり自己肯定感が育つ



叱ること、罰を与えること

- 即効性はあるが、罰を繰り返すことで罰への耐性が次第に身についていく
- 叱る人がいなければ、好ましくない行動をする
- 注意を受けたり怒られたりすることよりも、反応してくれたことが嬉しくて繰り返す
- 相手に対して敵意や不快感、嫌悪感を次第に抱いていく





肯定的なかかわりをもつ

- 否定的な言葉かけを「肯定的」に
 - ・ 肯定的な言葉かけ
「走ってはダメ！」→「歩こうね」
「ちゃんとしなさい！」→「イスに座りましょう」
- 困った言動をよりよい言動に置き換える
 - ・ 「今よりも少しよい言動」を目標にする
 - ・ 言動が今よりも少しよい方向に進めば、定着を図るために、すかさず褒めましょう
※最善の言動だけを目標にする→×

肯定的なかかわりをもつ

- 泣いたり、怒ったりしているとき
 - ・ 冷静に客観的に見守る
 - ・ 少しでも落ち着いてきた時
「よく我慢できたね」
「我慢してくれてありがとう」
「えらかったね」など
- 当たり前なことからほめる
 - ・ できて当たり前だからほめないから脱却
「頑張ってるね」
「最後まで絵本聞けてえらいね」など

具体的なかかわりをもつ

- 伝わりづらい言葉かけ
 - ・ 「仲良く遊んで」「いい子にしてね」「もうちょっと小さい声でおしゃべりしようね」等
→「○○ちゃん」と〇〇して遊ぼうか
→「(見本を見せて) これぐらいの声でお話しようね」
- 具体的にほめる
 - ・ 「おめでとうだね」「すごいね」「えらかったね」等
→「おはようって言えて、えらかったね」
→「お片づけしてくれて、ありがとう」
※ほめ言葉に行動を付け加えてほめること

かかわり方が整理できていないと

- 誤学習
 - ・ 泣いたり怒ったりすれば、要求が叶う、回避できる、大人が関わってくれる等を学習してしまう
 - ・ こどものいたずらに驚いたり、面白がってしまうと、それが楽しくて繰り返す
 - ・ 周囲の関心を得るために、周りにとっては困った行動をとるようになる

かかわり方が整理できていないと

- 感情＝行動
 - ・ 感情の表現がいつまで直接的な言動になる
イライラする＝人を叩く
苦手な本を出される＝本を破る など
- 自尊心の低下
 - ・ 失敗を積み重ねて自尊心(自己肯定感)が育ちにくい
二次障がいの可能性
ひきこもり
小児うつ など

発達支援のポイント

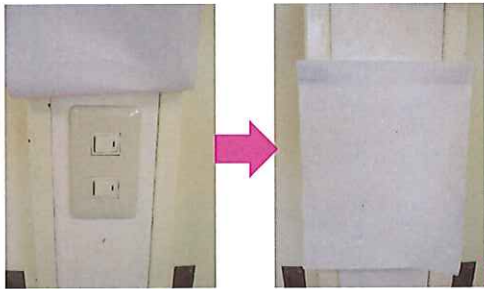
～安心感と安定感の提供～

こどもの目線で考える
こどもの世界を
想像してみましょう
こどもの自立を見守る
おとなの役割

こどもの目線で考える

- こどもの感じ方、見え方、理解の仕方を知る
- 環境を見直す
 - ・ 些細な刺激に影響を受けているかも
 - ・ 環境に強い不快を感じているかも
 - ・ 場所の意味づけが曖昧になっているかも
- 環境を調整する
 - ・ 「今は何をするのか」「いつまでするのか」「終わったら何をするのか」を明確に示す
 - ・ 必要な情報に集中できる環境を作る

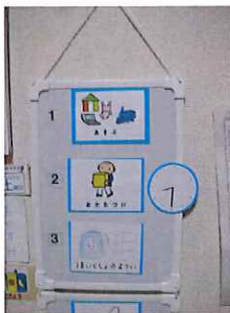
お子さんの気になるものは・・・



おもちゃ棚



ご自宅で活用されているスケジュール



すべきことを明確に★

幼稚園で活用されている衣類たたみの手順書



すべきことを明確に★

その他のポイント

- 最も重要なところに注意が向くよう配慮する
 - ・ 意図を明確かつ端的に伝える
 - ・ 余計な刺激をコントロールする
 - ・ 一度に伝える情報はひとつに
- よい言動が印象に残るようにする
 - ・ よい言動を導くことができれば、必ず具体的にほめる
 - ・ 当たり前のことをほめる習慣
 - ・ トークン・エコノミー法を活用する

トークン・エコノミー法



こどもの自立を見守る おとなの役割



周囲のおとなの役割

- 安心できる場をつくる
 - 育つ環境を整える
 - 均しく教育の機会を受ける
 - 社会的に自立していくことを目指す
- 主役 = こども**
- おとなは、主役を支える脇役

まとめとして「風」が大切にしていること

- 「目的」と「手段」を点検
- 肯定的な声かけ、自己肯定感を育むかわり
- 「怒らないけど、譲らない」
- 「困ったこども」＝「困っているこども」
- 「こどもの支援」＝「家族の支援」

さいごに

- こどもの発達のパースは一人ひとりさまざまです
- こどもの成長に正解や不正解はありません
- 一人ひとりの「その子らしさ」を見つけ、ご家族が楽しんで子育てできるように、お手伝いをさせていただくことができれば幸いです



ご清聴ありがとうございました

